

実践『ペルソナ』通信 (No.8)

「実践女子大生の金銭感覚と貯金の実態」に関する調査結果

～最もお金がかかっているのは「趣味」 ひと月にお金が残る人8割 ～

実践女子大学人間社会学部 「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、「金銭感覚と貯金」についてアンケート調査を実施しました。有効回答者数は63でした。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計科学（担当:竹内光悦）」、「経営学（担当:篠崎香織）」、「マーケティング（担当:斎藤明）」の3つの分野のゼミ生を中心に組織され、自分たちの消費活動、ライフスタイルをはじめ「実践女子大生が自分たち自身」を科学する研究会です。

総括

渋谷キャンパスに所属する実践女子大生の金銭感覚と貯金に関する実態について、63 サンプルの実践女子大生から回答を得た。

アルバイトの実施については、回答者全体の83%の人がアルバイトをしていて、ひと月の平均収入額は3万円以上～7万円未満が過半数を占めている（図2）。学年があがるとともに平均収入額が増えていることもわかった。また、収入額の中でひと月に自由に使える平均金額は5万円未満であることから、収入額の中でお金を遣り繰りしていることがうかがえる（図3-1,図3-2）。

ひと月にお金を計画的に使っていると回答した人は44%であり、計画的にお金を使っていないと回答した人が過半数を超えた。このことから、ひと月にお金を計画的に使っている人のほうが少ないことがわかった。また、最も優先してお金をかけたいものは「趣味（37%）」であり、実際に最もお金がかかっているものも「趣味（32%）」であることがわかった。一方、「普段の食事」や「会食」においては、お金をかけたい割合より、実際にお金がかかっている割合が高いことから、予定より食費が多くかかっている傾向がうかがえる（図5,図6）。

貯金に関しては、ひと月にお金が残ると回答した人が全体の83%であり、その中で貯金をしている人は47%であった。貯金をしている目的は、約8割の人が特に明確な使い道や目標がないと回答したことから、目的をもって意識的に貯金している人はそれほど多くないことがわかった。

学年別では、収入額、貯金額ともに学年が上がるにつれて平均金額もあがっていることから、上級生の方が多額の金銭を管理していることがうかがえる。

調査結果のポイント

(1) アルバイトをしている人は全体の 8 割

アルバイトをしているかどうかの質問について、「している」という回答は 83%、「していない」という回答は 17%であった。また、一人暮らしの人より実家暮らしの人のほうがアルバイトをしている割合が高かった。この結果は、今回の回答者の多数が実家暮らしである（76%）傾向からなのか、実家暮らしと一人暮らしのアルバイト実施比率については、両者を同等なサンプル数にして再度調査を試みたい。

(2) お金を計画的に使っていない人が 56%

ひと月で計画性をもってお金を使っているか尋ねたところ、「はい」という回答が 44%、「いいえ」という回答は 56%であった。計画的に使っていない人のほうが多かった。しかし、収入と支出の関係より 98%の人がひと月の収入内でやりくりしていることが読み取れる。

(3) もっともお金がかかっているのは「趣味」

ひと月でお金をかけたいものを「普段の食事」、「会食」、「ファッション」、「コスメ」、「趣味」の中から優先順位の高い順に回答するよう求めたところ、1 番優先順位が高かったのは「趣味（37%）」で、続いて「普段の食事（27%）」、「ファッション（24%）」、「会食（11%）」、「コスメ（1%）」の順になった。また、実際にお金が一番かかっているものを「普段の食事」、「会食」、「ファッション」、「コスメ」、「趣味」の中から最もあてはまるものを 1 つだけ尋ねたところ、1 番多かった回答は「趣味（32%）」であった。一方、「普段の食事」や「会食」においては、お金をかけたい割合より、実際お金がかかっている割合が高く、現実的に食費が多くかかっている学生が多い傾向がある。

(4) ひと月の残額は学年とともに増えている

ひと月の平均残額について尋ね、全回答者（図 7-1）と学年別（図 7-2、図 7-3、図 7-4）の集計を行った。全回答者の集計では、お金が「残らない（17%）」、「3 万円以上～5 万円未満残る（13%）」、「5 万円以上残る（8%）」であった。一方学年別では、1 年生はお金が「残らない（26%）」、「3 万円以上～5 万円未満残る（4%）」、「5 万円以上残る（0%）」であったのに対し、2 年生はお金が「残らない（19%）」、「3 万円以上～5 万円未満残る（19%）」、「5 万円以上残る（0%）」であった。さらに 3 年生はお金が「残らない（5%）」、「3 万円以上～5 万円未満残る（32%）」、「5 万円以上残る（11%）」であった。全回答者の集計結果からは、特に平均残額に偏りはないが、残額は多くないことがわかった。また、学年別の集計結果からは、学年が上がるにつれて、お金が「残らない」と回答する人の割合が減り、「3 万円以上お金が残る」と回答する人の割合は増えていることがわかった。

(5) 貯金をしている人の約 6 割は、明確な目的なし

貯金をしている人の中で、貯金の目的を尋ねたところ「万が一の備え（42%）」と回答した人が一番多く、続いて「旅行などのレジャー（25%）」、「目的なし（21%）」という順になった。「万が一の備え」と「目的なし」の回答を合わせると 6 割を超える。

調査結果について

<調査概要>

1. 調査対象： 実践女子大生 1 年～3 年生(渋谷キャンパス在生)
2. 調査方法： 質問紙によるアンケート
3. 調査期間： 2015 年6月23日
4. 有効回答者数：63 人
5. 回答者の属性：【実践女子大学生：学年】1 年：37%、2 年：33%、3 年：30%

【本調査担当チーム】

実践「ペルソナ」研究会

3 年 新井美怜

3 年 大崎綾乃

3 年 岸本萌美

3 年 鳥居由佳子

3 年 松川早希

3 年 鈴木千晶

調査結果データ

(1)居住形態を尋ねたところ、実家暮らしの人は全体の 76%、一人暮らしをしている人は 24%であった。アルバイトをしているかも聞いたところ、回答者の 8 割がアルバイトをしていることがわかった。居住形態とアルバイトの実施有無を比較したところ、実家暮らしでアルバイトをしている人は 85%、アルバイトをしていない人は 15%、一方、一人暮らしでアルバイトをしている人は 73%、アルバイトをしていない人は 27%であった。実家暮らしの人のほうがアルバイトをしていることがわかった(図1)。

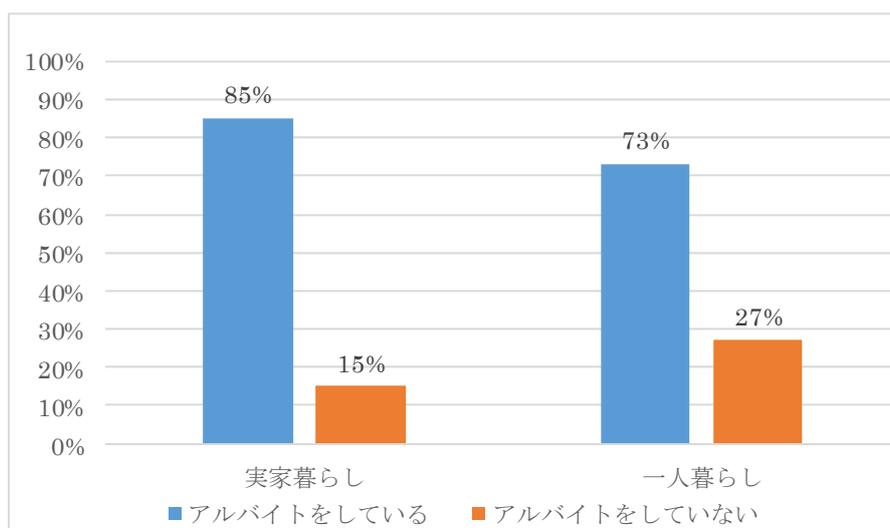


図1 居住形態とバイトの有無 (N=63)

(2) ひと月の平均収入を尋ねたところ、「3万円未満(19%)」、「3万円以上~5万円未満(30%)」、「5万円以上~7万円未満(27%)」、「7万円以上~9万円未満(8%)」、「9万円以上~10万円未満(8%)」、「10万円以上(8%)」という結果であった。ひと月の女子大生の平均収入は3万円以上~7万円未満が大多数であることがわかった(図2)。

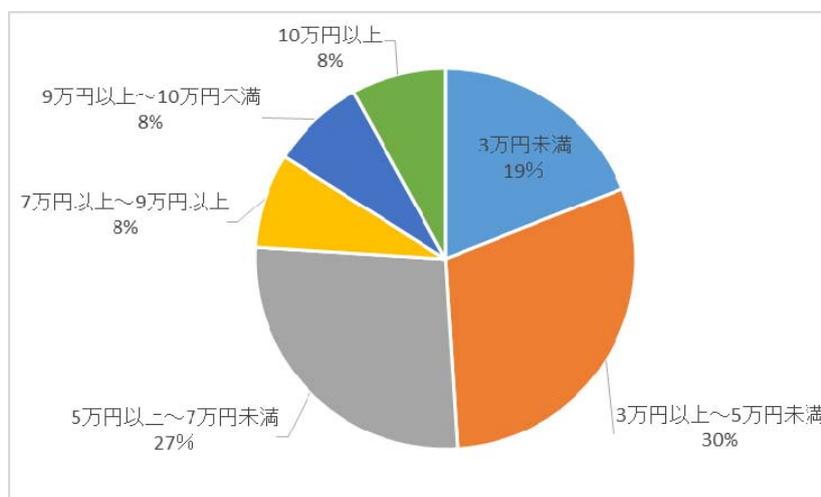


図2 ひと月の平均収入 (N=62)

(3) ひと月で自由に使える金額を尋ねたところ、「3万円未満(32%)」、「3万円以上~5万円未満(35%)」、「5万円以上~7万円未満(15%)」、「7万円以上~9万円未満(8%)」、「9万円以上~10万円未満(8%)」、「10万円以上(2%)」であった。ひと月の女子大生の平均支出は3万円以上~5万円未満が大多数を占めていることがわかった(図3-1)。

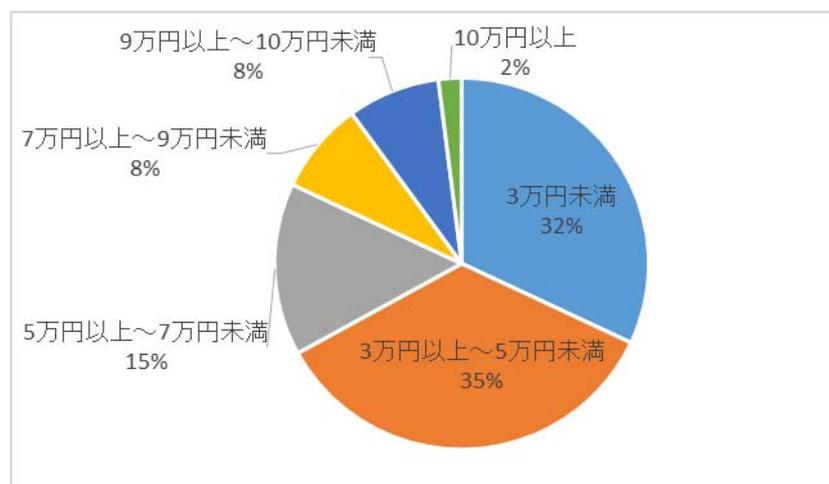


図3-1 ひと月自由に使えるお金の平均 (N=62)

収入と支出を比較したところ、「収入よりも支出が多い(2%)」「収入と支出が等しい(56%)」「支出よりも収入のほうが多い(42%)」という結果になった。この結果よりひと月の収入分をすべて使い果たす人が半数以上を占めていることが分かった(図3-2)。

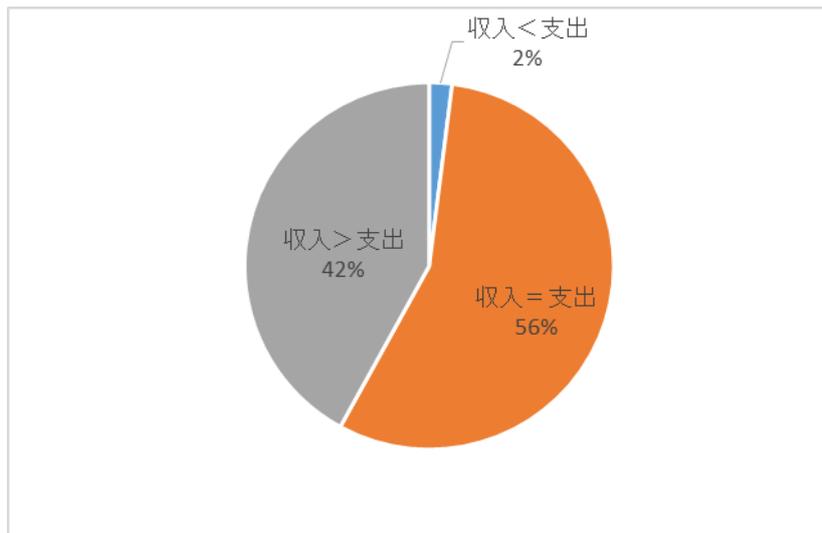


図 3-2 収入と支出の関係 (N=62)

(4) ひと月でお金の計画性をもって使っているか尋ねたところ、44%が「はい」と答え、56%が「いいえ」と答えた。計画性をもって使っていない人は半数を超えることがわかった (図 4)。

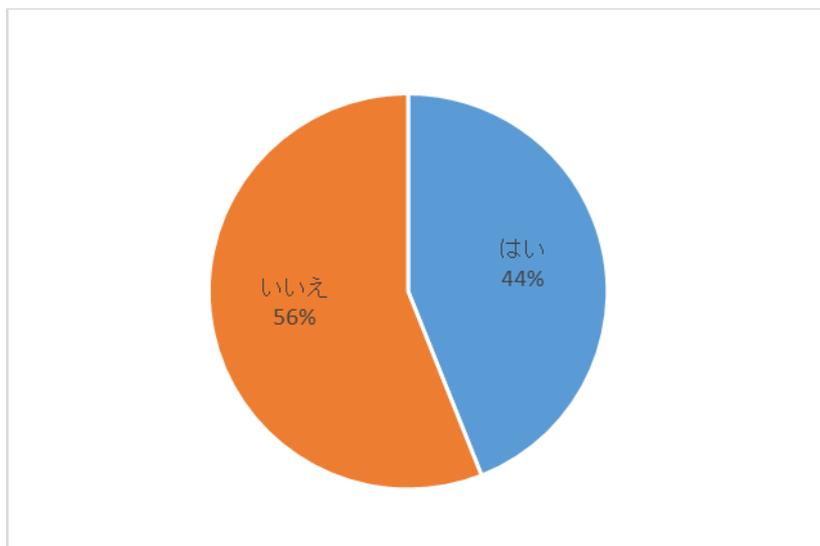


図 4 お金の使い方 計画性の有無 (N=62)

(5) ひと月でお金をかけたいものを「普段の食事」、「会食」、「ファッション」、「コスメ」、「趣味」の中から優先順位の高い順に回答してもらい、1位に選ばれたものを集計したところ、1番多かった回答は「趣味(37%)」であった。次に「普段の食事(27%)」、「ファッション(24%)」という順になった。趣味やファッションのように比較的単価が高いものと、普段の食事のように単価は安くても積み重なって高くなるものは優先順位が高いことがわかった。また「会食(11%)」や「コスメ(1%)」と優先順位は低いことがわかった (図 5)。

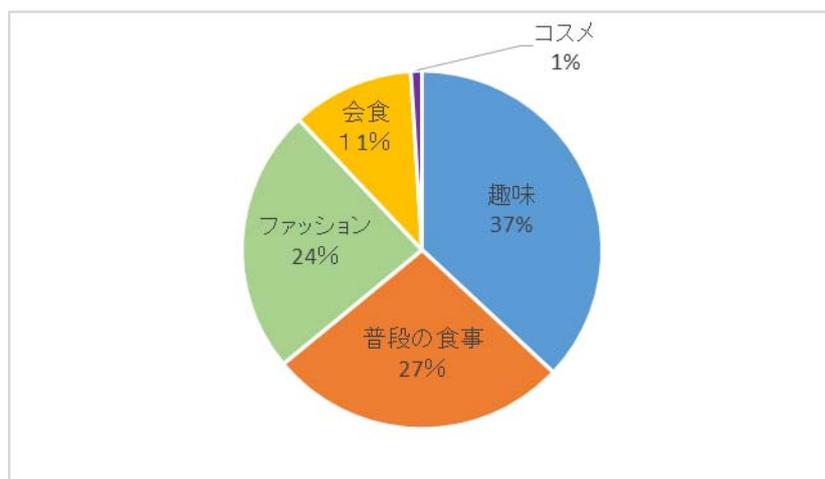


図5 ひと月でお金をかけたいもの (N=63)

(6) 実際にお金が一番かかっているものを「普通の食事」、「会食」、「ファッション」、「コスメ」、「趣味」の中から最もあてはまるものを1つだけ尋ねたところ、1番多かった回答は「趣味(32%)」で、次に「普通の食事(30%)」、「会食(22%)」、「ファッション(16%)」となり、「コスメ」と回答した人はいなかった。ひと月でお金をかけたいもの(図5)と、ひと月で1番お金がかかっているもの(図6)を比較してみると、普通の食事と会食の占める割合が増えていることから、大学生の食事は思いのほかお金がかかっているようである(図6)。

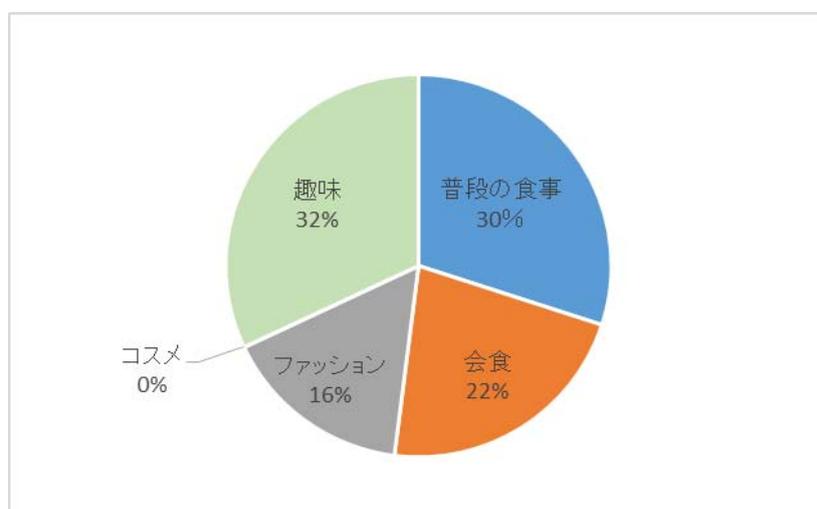


図6 ひと月で一番お金がかかっているもの (N=63)

(7) ひと月の平均残額は1~3年の回答を総合した結果から見ると、約半数の56%が手元にお金が「残らない」または、「5千円以上~1万円未満残る」と回答していることが分かる。続いて「1万円以上~4万円未満残る(34%)」、「4万円以上残る(13%)」という結果になった。(図7-1)これを、各学年に分けて見ていくと、全体のグラフでは56%だった「残らない」か「5千円以上~1万円未満残る」の回答が、1年生は88%、2年生は52%、3年生は31%となっており学年を経ることにより残額が増えている(図7-2, 図7-3, 図7-4)。

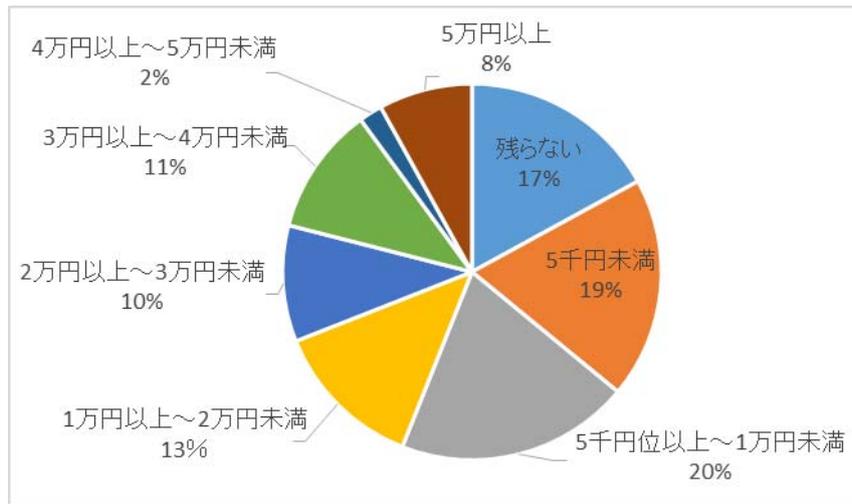


図 7-1 全回答者のひと月の平均残額 (N=63)

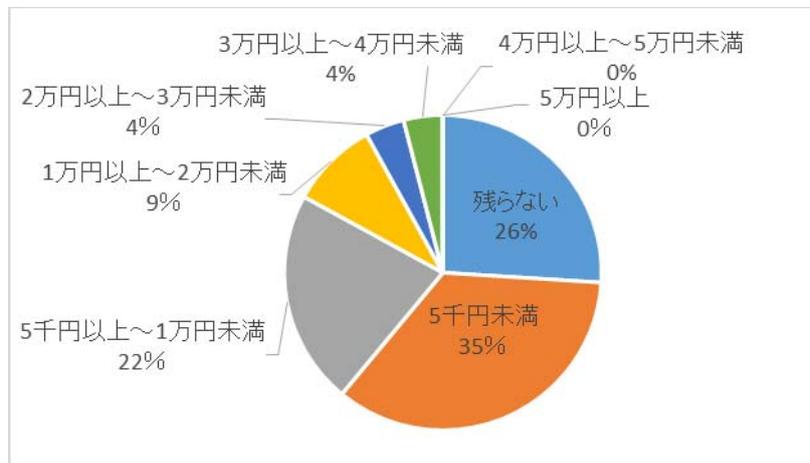


図 7-2 1年生のひと月の平均残額 (N=23)

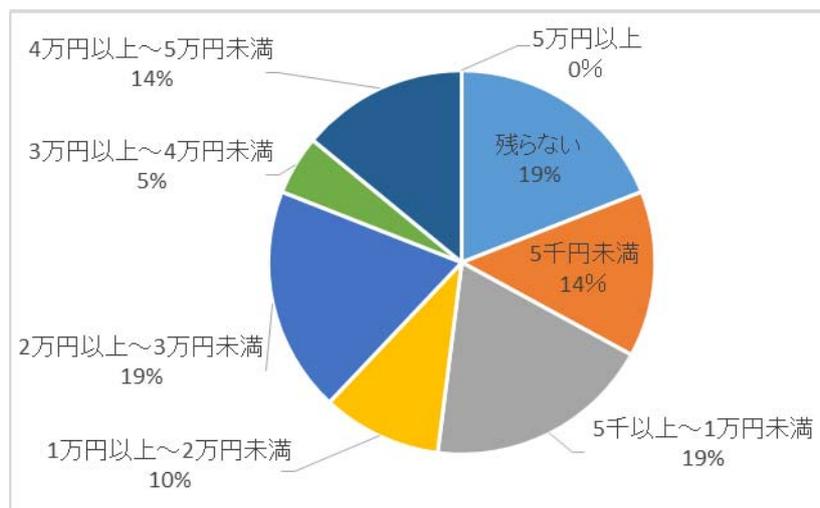


図 7-3 2年生のひと月の平均残額 (N=21)

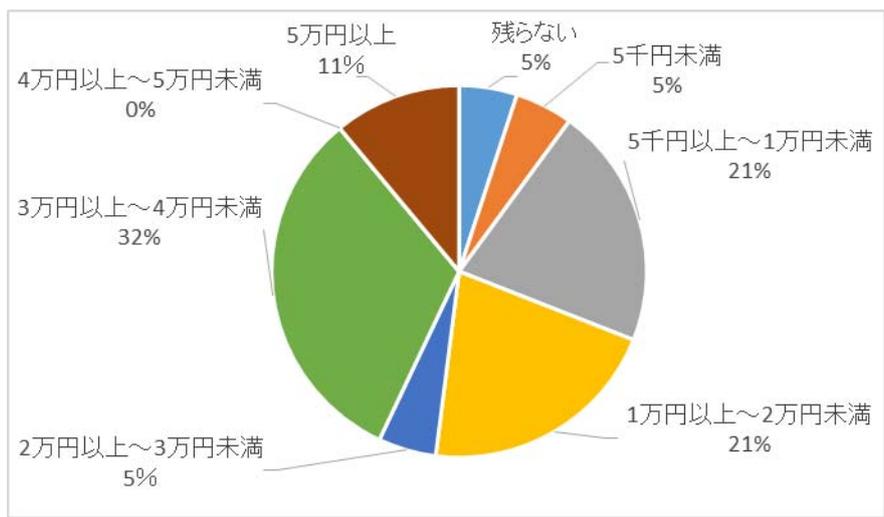


図 7-4 3年生のひと月の平均残額 (N=19)

(8) ひと月にお金が残ると回答した人の中で、残額の使い道を尋ねたところ、翌月に繰り越している人は全体の53%。一方、貯金をしている人は47%であった。残額を翌月に繰り越すと回答した人が過半数を超えている(図8)。

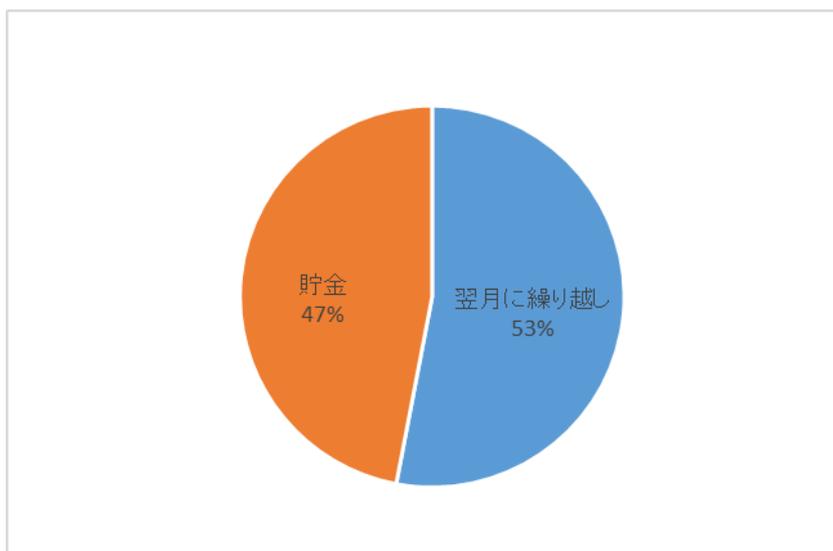


図 8 ひと月の残額の使い道 (N=51)

(9) 貯金をしている人に、貯金をしている目的を尋ねたところ、1番回答が多かったのは「万が一の備えとして」であった(42%)。次に回答が多かったのが「旅行などのレジャー」である(25%)。そして、3番目に多かった回答が「目的なし」である(21%)。このような結果から、貯金をしている者の約6割は明確な使い道や目的を持っていないことがわかった(図9-1)。

また、「高額な商品の購入」と回答した人(3人)の、ひと月の平均残高をみると5万円以上が2人、2万円以上～3万円未満が1人であった。このことから、貯金の目的が「高額の商品の購入」である人はひと月の平均残高が高い傾向があることがわかった(図7-1)(図9-2)。

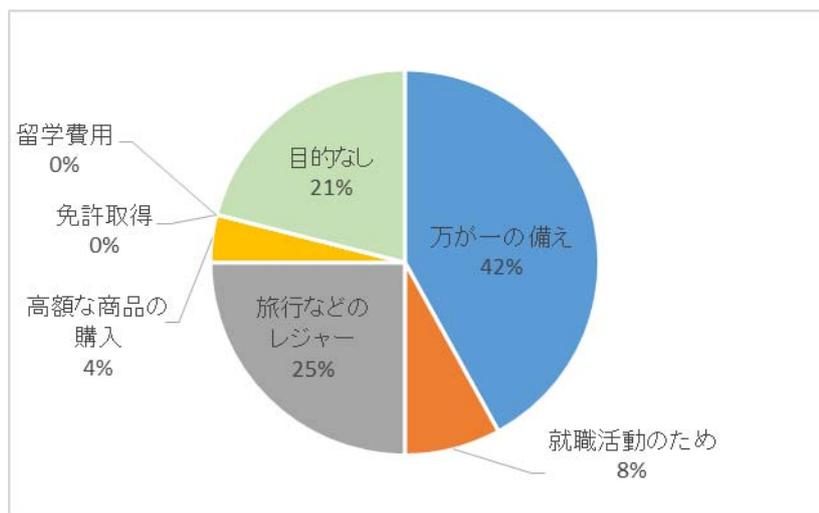


図 9-1 貯金の目的 (N=24)

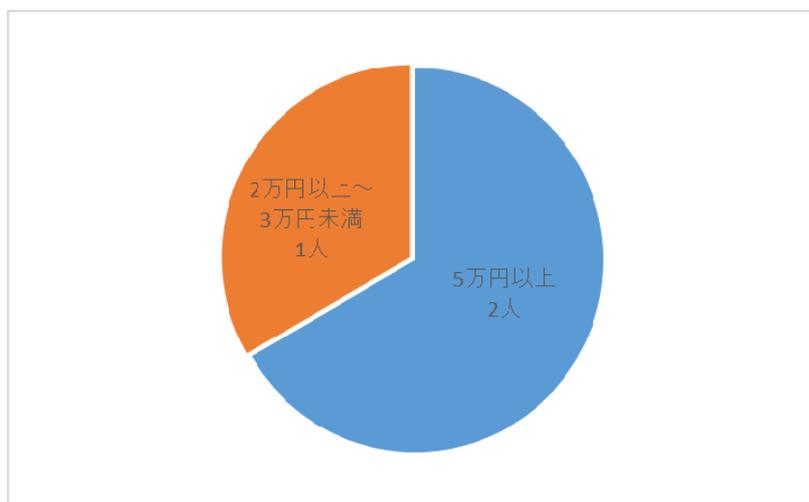


図 9-2 貯金目的が「高額な商品のため」である人のひと月の平均残高 (N=3)

(10) 貯金をしている人の中で、貯金を意識しはじめた時期を尋ねたところ、全体の4分の3以上が大学生になる前から貯金を意識していることがわかった。1番多かった回答が小学生(42%)であり、貯金に関する意識は、小学生時代から芽生えていた人が多いことがわかった(図 10)。

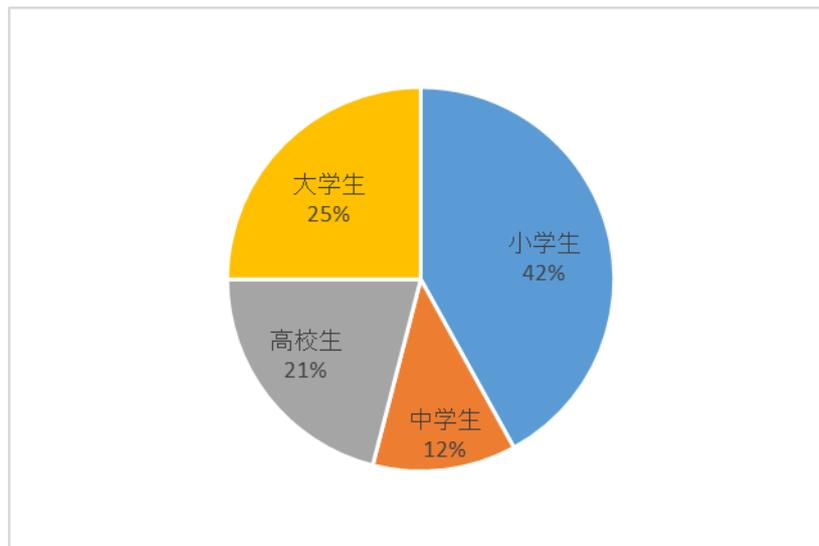


図 10 貯金を意識しはじめた頃 (N=24)